

DH ・ 技術要素 ・ IIIF

IIIF入門

画像を、機関を越えて扱う

DH入門 / 技術要素シリーズ

中村

※実験的な取り組みです（構成・図・AI音声合成を含む）。内容をご確認・ご注意のうえご利用ください

この動画について

- ✓ **クリエイティブ・コモンズ**のオープン教材を参照し、独自に構成した解説です
- ✓ スライド・図は新規作成、ナレーションは**本人声のAI音声合成**
- ✓ これは**実験的な取り組み**です。内容は**ご確認・ご注意のうえ**ご利用ください
- ✓ 誤りに気づいたら概要欄からご指摘ください。出典・ライセンスは末尾と概要欄に記載しています

この回のゴール

- 「画像を、機関を越えて共通のルールで扱う」とはということかをつかむ
- ✓ **IIIF**がどんな問題を解こうとしているのかを、自分の言葉で説明できる
 - ✓ **画像API**で、画像の一部やサイズをURLで指し示す、という発想を説明できる
 - ✓ **マニフェスト**が、画像群の順序やメタデータをまとめる入れ物だと説明できる
 - ✓ どのビューアでも開ける、という**相互運用**の利点をイメージできる

前提: 特にありません。画像を「見る」経験があれば十分です

今日の流れ

- ✓ なぜ **IIIF** が生まれたのか — 画像が「閉じている」問題
- ✓ **画像API** — 画像を、URLで好きなように取り出す
- ✓ **Presentation API** — 画像群を、マニフェストでまとめる
- ✓ **ビューアと相互運用** — どの画像も、同じ道具で開く
- ✓ 注釈・DHでの活用と、はじめの一步

なぜ IIIF が生まれたのか

まずは、画像が「閉じている」問題から

画像が、それぞれの中に閉じている



横に並べられない・再利用しにくい

機関ごとに**別々のビューア・別々の形式**。並べて比べることも、再利用することも難しい

IIIF = 画像を扱う「共通の約束ごと」



IIIF（トリプル・アイ・エフ）は、画像の配信と記述を取り決めた、国際的な**コミュニティ標準**

ここまでの整理

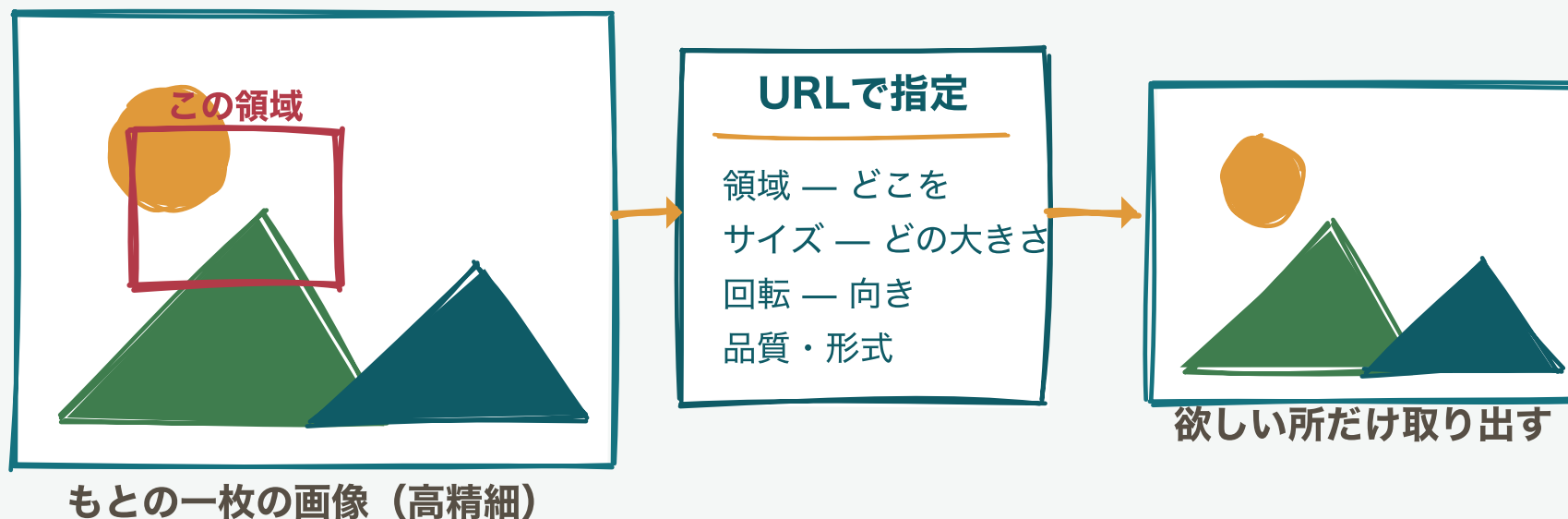
- ✓ これまでは、画像が機関ごとの**ビューア・形式に閉じていた**
- ✓ IIIF は、画像を扱う手順を**共通の約束ごと**として取り決めた
- ✓ その約束は、いくつかの **API**（やり取りの取り決め）からできている

この回では、特に基本となる二つ — **画像API** と **Presentation API** — を見ていきます

画像API

画像を、URLで好きなように取り出す

画像の「どこを・どう」をURLで指定する



一枚の画像に対し、**領域・サイズ・回転・品質**を指定して、欲しい部分だけ取り出せる

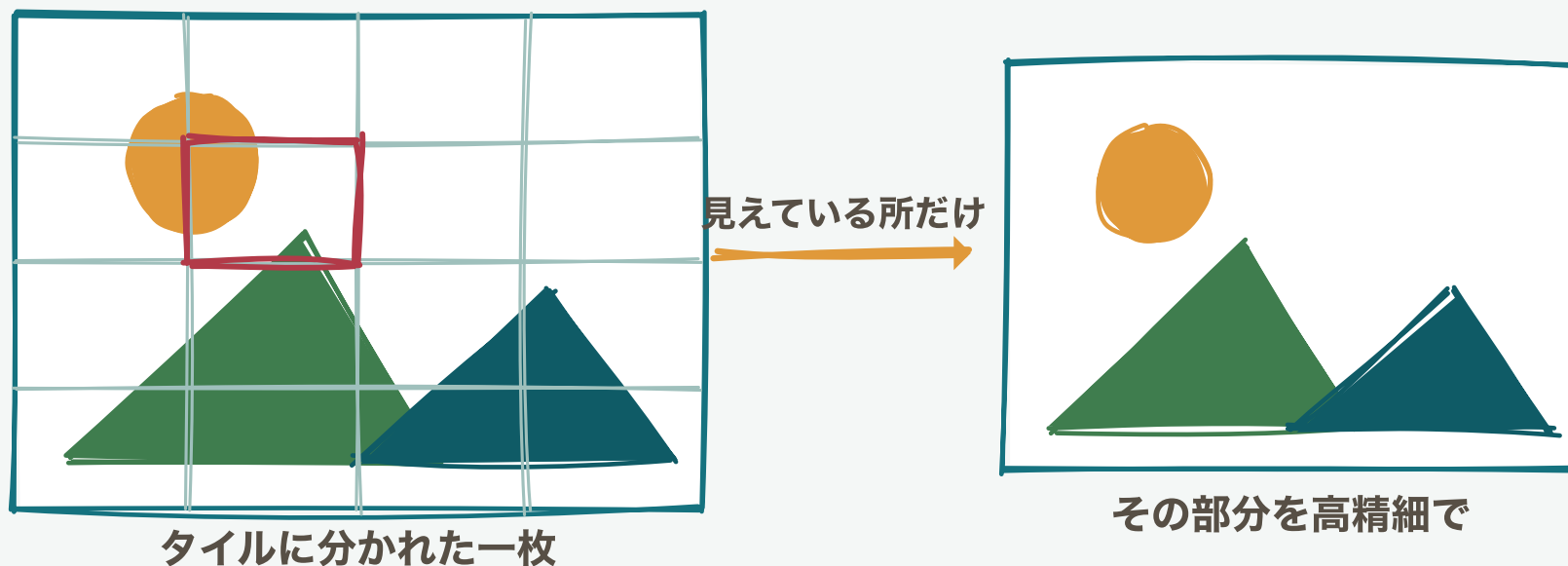
URL の形そのものが「注文書」になる

…/画像の名前/領域/サイズ/回転/品質.形式



URLの**並び**がそのまま注文になる。だから特別なソフトがなくても、ブラウザだけで画像を呼び出せる

だから、軽く・深く拡大できる



必要な**部分だけ**を、必要な**大きさ**で受け取る。巨大な画像でも、滑らかに深くズームできる

ここまでの整理

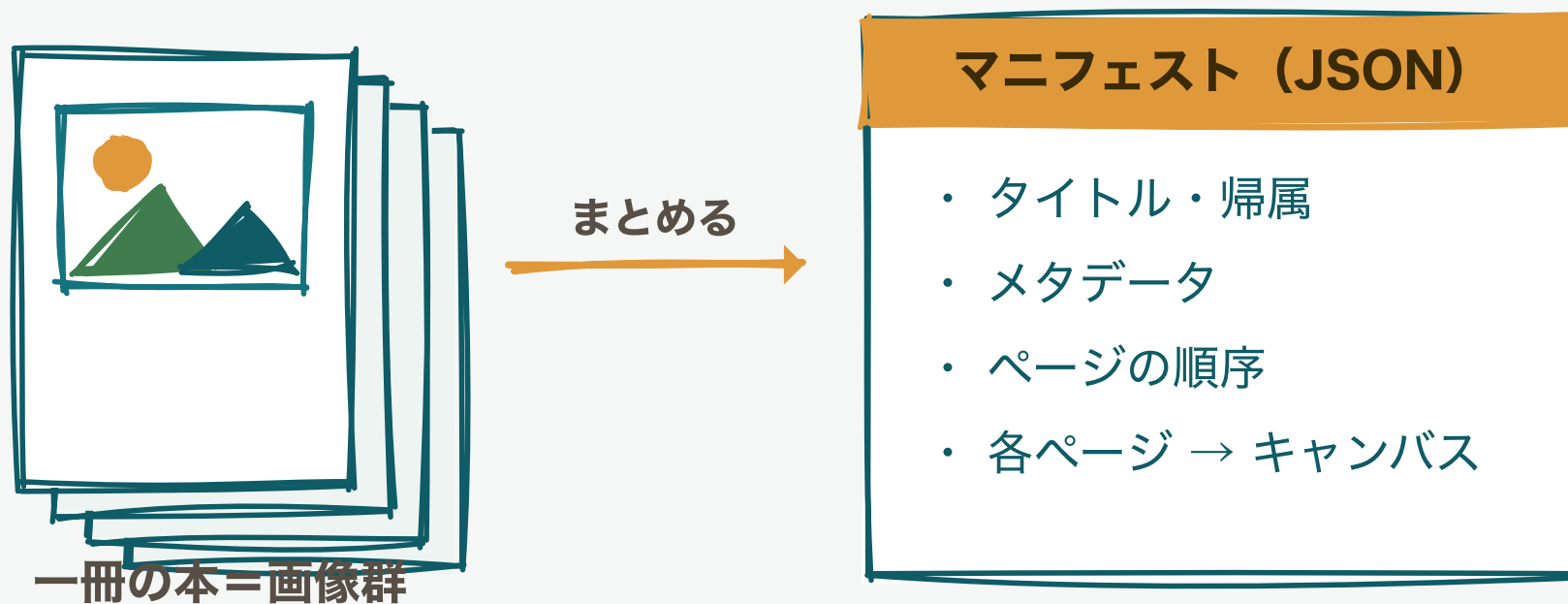
- ✓ 画像APIは、一枚の画像から**領域・サイズ・回転・品質**を指定して取り出す仕組み
- ✓ 指定は **URLの並び**そのもの。ブラウザだけでも呼び出せる
- ✓ だから、巨大な画像でも**必要な分だけ**受け取って、深く拡大できる

ここまでは「一枚の画像」の話。つぎは、画像を**束ねて**扱う話に進みます

Presentation API

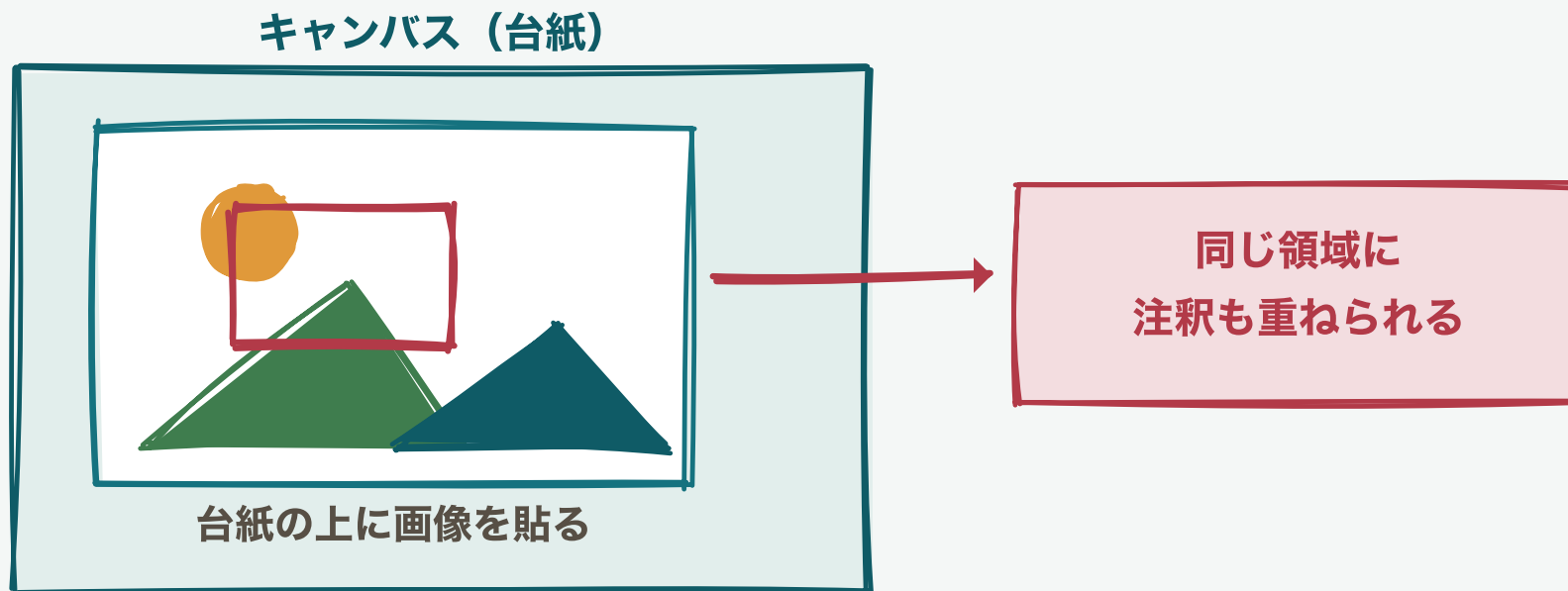
画像群を、マニフェストでまとめる

マニフェスト = 画像群を束ねる一枚の説明書



たとえば一冊の本を、**ページの順序・タイトル・メタデータ**ごと、ひとつの**マニフェスト**に記述する

キャンバスという「ページの台紙」



マニフェストの中身は**キャンバス**の並び。台紙の上に画像を貼り、同じ台紙へ**注釈**も重ねられる

ここまでの整理

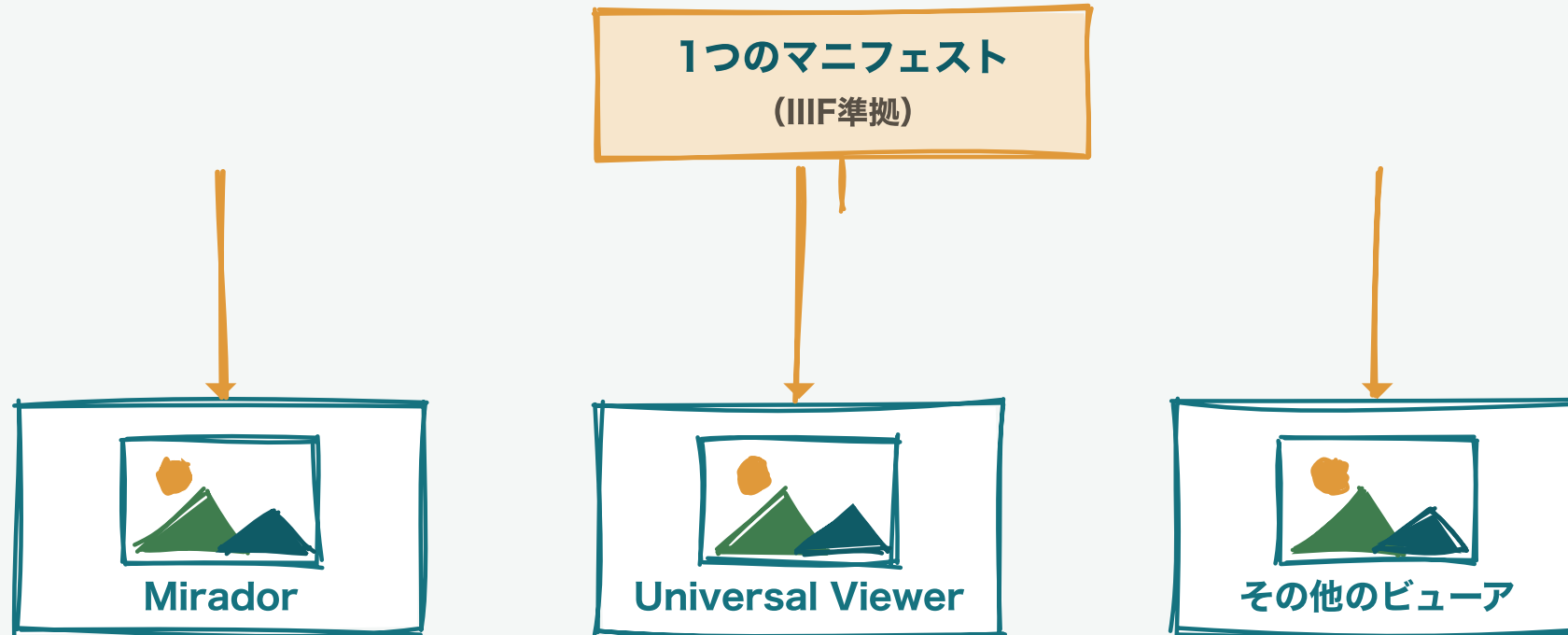
- ✓ 画像APIが「一枚をどう取り出すか」なら、Presentation APIは「**どう見せるか**」
- ✓ **マニフェスト**が、画像群の順序・タイトル・メタデータをまとめる
- ✓ その中身は**キャンバス**の並び。台紙に画像を貼り、注釈も重ねられる

この二つがそろると、画像は**持ち運べる形**になります。つぎは、それを「開く」側の話です

ビューアと相互運用

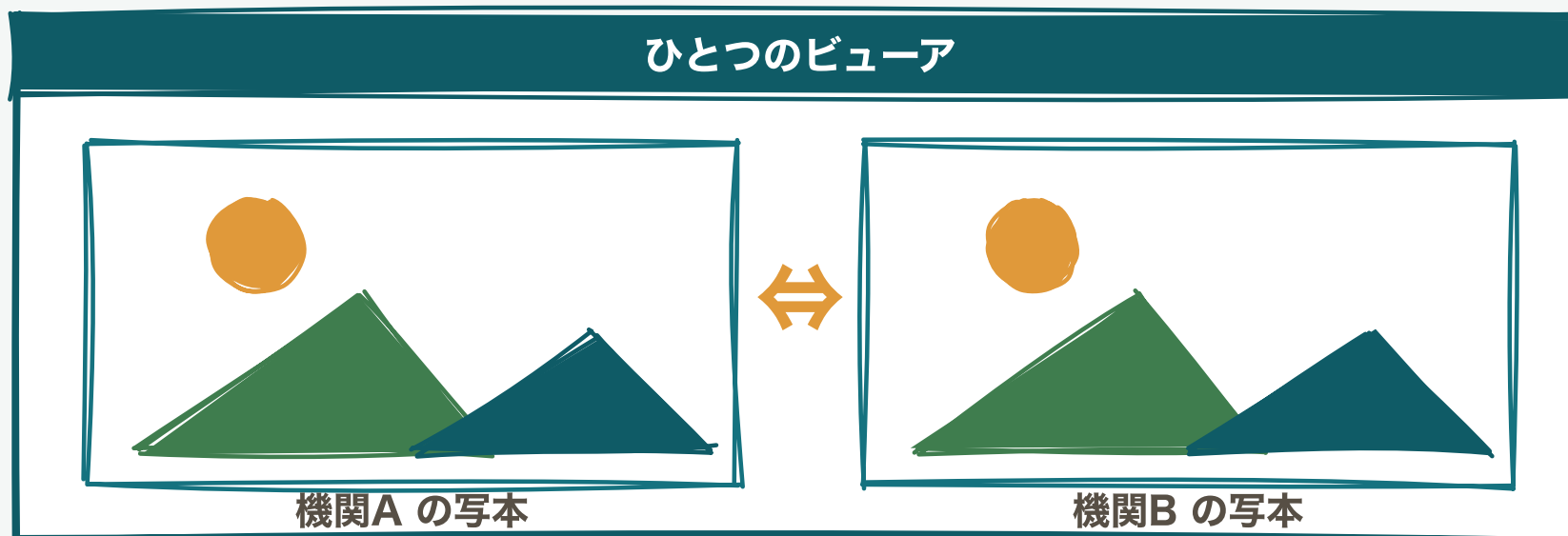
どこの画像も、同じ道具で開く

一つのマニフェストを、どのビューアでも



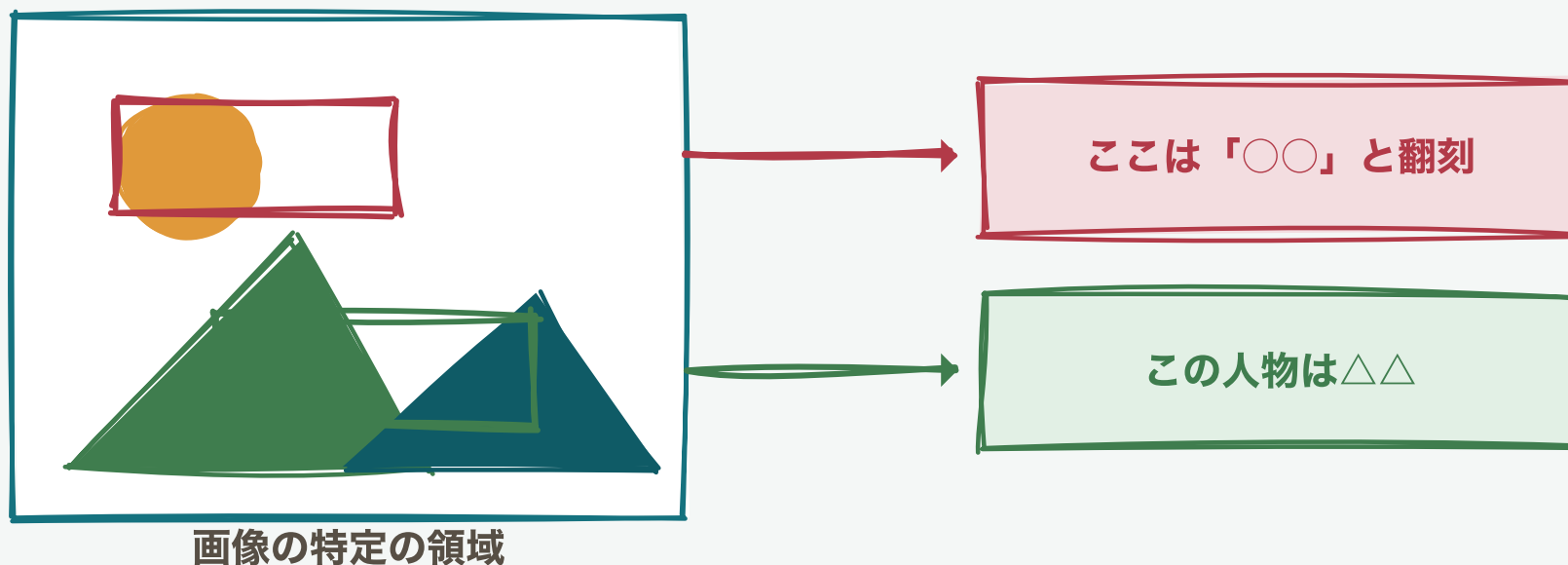
ミラドールや**ユニバーサル・ビューア**など、IIIFに対応したビューアなら、同じマニフェストを開ける

機関を越えて、並べて比べる



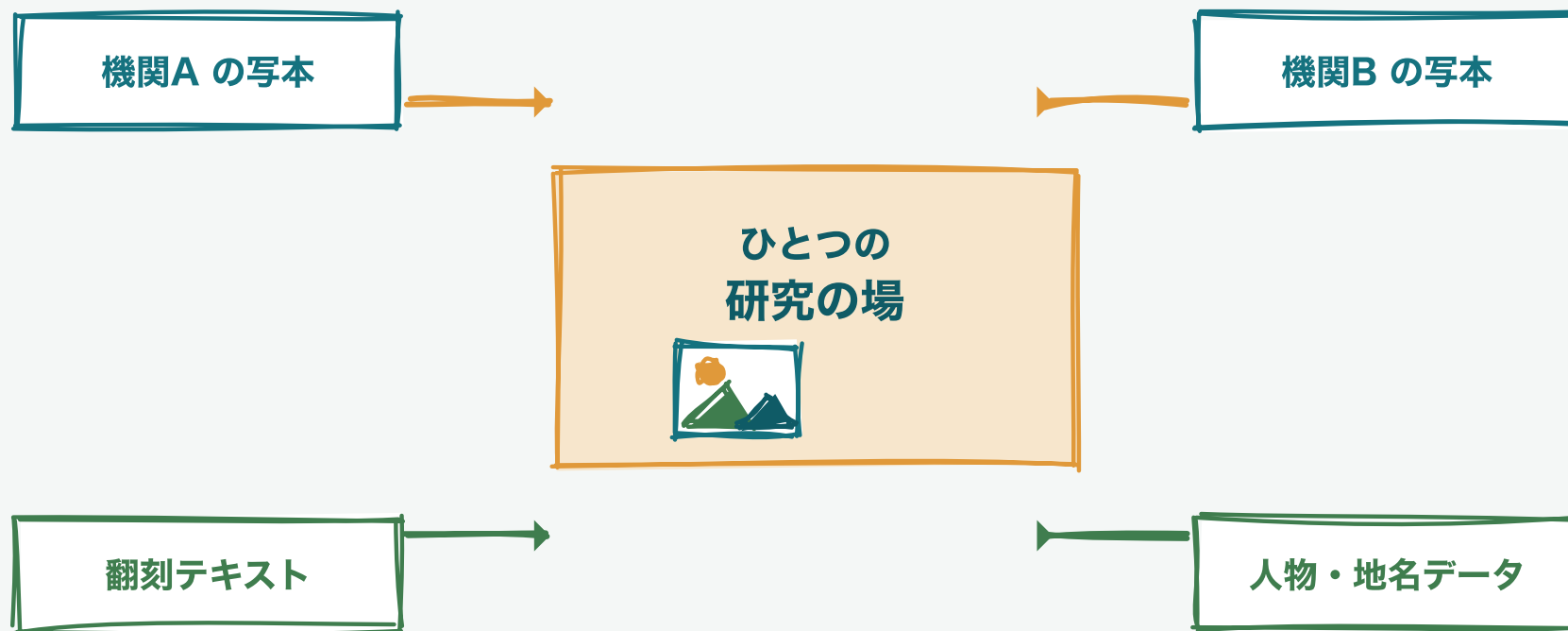
別々の機関の画像でも、ひとつの画面に**並べて**見比べられる。これが**相互運用**のうれしさ

画像の「ここ」に、書き込む



画像の**特定の領域**に、翻刻やコメントを結びつけられる (**Web Annotation**という共通の仕組み)

デジタル・ヒューマニティーズでの活用



散らばった史料を一画面に集め、領域に翻刻や注釈を重ね、**研究の場**を組み立てられる



少し、考えてみましょう

あなたが扱いたい画像を、もし IIIF で公開できたら —

- ✓ どんな史料を、誰と**並べて**見比べたいですか
- ✓ 画像の「ここ」に、どんな**注釈**を書き込みたいですか

よろしければ、ここで一度動画を止めて、思い浮かべてみてください

仕組みは器、中身は人が決める

- ✓ IIIF が整えるのは**配信と記述の作法**。画像そのものの**利用条件**は別に確認が要ります
 - ✓ **メタデータ**の質や、何と何を**並べる**かには、研究上の判断が入ります
 - ✓ 規格は版を重ねています。細部は**一次情報**で確かめるのが安心です
- 「つなげられる」ことと「つないでよい・つなぐ意味がある」ことは、別の問いとして残ります

自分で触れてみるなら

- ✓ 公開されている**マニフェストのURL**を見つけ、IIIF対応ビューアに読み込ませてみる
- ✓ **画像APIのURL**の、領域やサイズの部分を書き換えて、結果の違いを試す
- ✓ 体系的に学ぶなら、IIIF公式の**入門・クックブック**や、各APIの仕様を読む

まずは「開いて、URLをいじってみる」。手を動かすと、仕組みが腑に落ちます

まとめ

- ✓ **IIIF**は、画像を機関を越えて扱うための**共通の約束ごと**
- ✓ **画像API**は、一枚の画像から領域・サイズ・回転・品質を**URL**で取り出す
- ✓ **マニフェスト**が画像群の順序やメタデータを束ね、**キャンバス**に画像や注釈が乗る
- ✓ だから、どのビューアでも開け、機関を越えて**並べ・書き込める**

画像を「閉じた所蔵物」から「つなげる資源」へ。そんな見方をひとつ手にできました

出典・ライセンス

本動画は、以下のオープンライセンス教材を参照して作成しました。

- ✓ IIF Image API 3.0 / IIF Consortium (編者・貢献者) — CC BY 4.0
- ✓ IIF Presentation API 3.0 / IIF Consortium (編者・貢献者) — CC BY 4.0

スライド・図は中村による新規作成 (概念を参照し、表現は新たに構成)。

ご清聴ありがとうございました